

初めての授業を終えて



飯田 七葉さん

授業でタブレットに自分で書いたものを提出したり、絵を描いたりするのが楽しかったです。これを使って、みんなの意見を聞いてみたいと思います。



酒井 悠真さん

授業で使ったロイロノートは、最初難しいと思ったけど、使ってみると簡単でした。家ではパソコンしか使っていないので、学校でタブレットを使えるのはいい経験になります。



寺島 亮太教諭

タブレットを使うことで、普段意見の言えない子が話し合いに参加したり、新たな気づきを得ることを期待します。タブレットを使うことが目的になってしまわないように指導していきたいです。



子どもたちの未来広げる

全児童生徒に1人1台コンピュータ導入



カメラで先生をパシャリ



タブレットの形にも

新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン授業の必要性が高まったことから、国は子どもたちのICT環境を整えるGIGAスクール構想を加速化しています。

この流れにのり、勝山市は県内でもいち早く、全ての中学3年生と小学6年生へのタブレット型PC端末の配備を終え、10月1日には、鹿谷小学校でこの端末を使った初めての授業が開かれました。

授業のはじめに、個人情報の取り扱いや情報モラルについての説明を受け、いよいよ端末を開くと、意見集約などに使われるアプリ「ロイロノート」の使い方を学びました。

2～3月中には、全児童生徒に端末を配備します。当分の間は授業での活用に向けた準備期間とし、学校でのみの使用となりますが、期間終了後は自宅に持ち帰り、先生との連絡や遠隔授業のツールとしても利用する予定です。

端末はスマートフォンなどと同様にLTEで通信（通信費は市が負担）するので、校外学習での使用や、児童生徒一人ひとりへのデジタル教科書の導入など、新たな学校生活での活用が期待されます。